

2024年4月15日

各 位

会社名 いちご株式会社
代表者 代表執行役会長 スコット キャロン
(コード番号 2337 東証プライム)
問合せ先 常務執行役財務本部長 坂松 孝紀
(電話番号 03-4485-5221)
www.ichigo.gr.jp

長期 VISION 「いちご 2030」 経営目標 (KPI) の刷新のお知らせ

当社は、2019年4月17日付発表「中期経営計画「Power Up 2019」の達成および長期 VISION 「いちご 2030」策定のお知らせ」にてお知らせしました経営目標 (KPI) の刷新を本日開催の取締役会にて決定いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 長期 VISION 「いちご 2030」策定の意義

当社は、サステナブルな社会を実現するための「サステナブルインフラ企業」として、将来を見据えた戦略的な事業展開を通じて事業優位性のさらなる拡充を図り、株主価値の最大化に向けて全力を尽くしております。この実現のため、既存事業の継続的な成長に加え、当社が心築※事業を通じて培ってきたコア・コンピタンスを活かし、不動産市況に左右されにくい、持続性と安定性の高い新たな収益基盤の構築を目指しており、VISION 実現に向けて 2030 年 2 月期までの KPI 目標を定めております。

※ 心築 (しんちく)

いちごの不動産技術とノウハウを活用し、一つ一つの不動産に心を込めた丁寧な価値向上を図り、現存不動産に新しい価値を創造することをいい、日本における「100年不動産」の実現を目指しております。

2. 長期 VISION 「いちご 2030」経営目標 (KPI) 一部刷新の背景

当社は、従前より、キャッシュの創出を最重要指標としてまいりました。キャッシュの創出力は収益力の実態であり、創出したキャッシュにより、株主価値の最大化に資する成長投資と株主様への還元の両面を追求しております。

こうした考えのもと、徹底的なキャッシュ・フロー経営を推進しております。また、2024年2月期においては過去最高のストック収益(※)を実現し、持続性と安定性の高い新たな収益基盤の構築が進んでおります。

これらの事業の状況を踏まえ、キャッシュ指標を KPI とするとともに、持続性と安定性の指標として当社が重要視しているストック収益による固定費のカバー率を目標として新設いたしました。また、ストック収益が拡大していること、今後も拡大の継続が見込まれることから、株主様への還元を強化し、累進的配当政策とともに設定している DOE 目標を引き上げることといたしました。

さらに、当社は、企業の存在意義は社会貢献であると考えております。地球温暖化等が深刻化しているなか、環境課題解決に向けて役職員一同が一丸となって取り組んでおり、この度、サステナブルな社会の達成への環境課題解決 KPI を新設することといたしました。

3. 新経営目標 (KPI) の内容 (期間: 2030年2月期まで)

■ 資本生産性およびキャッシュ創出力

① 自己資本利益率 (ROE)

・キャッシュ ROE : 18%以上【新設】

・ROE : 15%以上

※ キャッシュ ROE

= $\frac{\text{キャッシュ純利益 (当期純利益 + ノンキャッシュ費用)}}{\text{期中平均自己資本}}$

② エコノミック営業キャッシュフロー

・当期純利益超過の維持

※ エコノミック営業キャッシュフロー

営業活動によるキャッシュ・フローから販売用不動産および販売用発電設備の増減額 (仕入・売却) の影響を控除し、かつ、特別損益に計上される心築資産の売却損益を加味したキャッシュ・フロー (税引後)

※ 「JPX日経インデックス400」への11年間継続組み入れ【廃止】

当社は、徹底したキャッシュ・フロー経営のもと、キャッシュ利益 (経済利益) を重視しており、その取り組みを強化しております。よって、会計利益をスコア要素とする本インデックスとの相違があり、本インデックスへの組み入れを KPI から取り下げることといたしました。

■ 安定収益

① ストック収益比率

・60%以上 (2030年2月期)

② ストック収益固定費カバー率【新設】

・200%以上

※ ストック収益: 賃貸収益、売電収益、AMのベース運用フィー等

※ 固定費: 固定販売費及び一般管理費、支払利息

■ 株主還元策

① 「安心安定配当」の累進的配当政策 (Progressive Dividend Policy)

・2017年2月期より導入した「累進的配当政策」の維持

② DOE (株主資本配当率)

・4%以上【強化】(強化前 3%)

③ 機動的な自社株買い

・株主価値向上に資する最適資本構成を目指し、機動的な自社株買いを実施

■ サステナブルな社会に向けた環境課題解決【新設】

① いちごのクライメート・ポジティブ

当社および当社が運用するインフラ投資法人であるいちごグリーン (9282) がクリーンエネルギー創出により削減する CO2 量が、当社および当社が運用する投資法人 (いちごオフィス (8975)、いちごホテル (3463) およびいちごグリーン) が消費する CO2 量 (Scope1・Scope2) を上回る、クライメート・ポジティブの維持

② RE100

2025年までに事業活動で消費する電力を100%再生可能エネルギーに

③ CDP リーダーシップレベル

気候変動プログラム「Aリスト」企業の維持

水セキュリティプログラム「Aリスト」企業の達成（現在はリーダーシップレベルA-）

【参考】

いちご長期 VISION 新経営目標（KPI）一覧表

資本生産性およびキャッシュ創出力 自己資本比率（ROE）： キャッシュ ROE 18%以上【新設】 ROE 15%以上 エコノミック営業キャッシュフロー： 当期純利益超過の維持
安定収益 ストック収益比率： 60%以上 ストック収益固定費カバー率： 200%以上【新設】
株主還元策 「安心安定配当」の累進的配当政策（Progressive Dividend Policy）の維持 DOE（株主資本配当率）4%以上【強化】 機動的な自社株買いの実施
サステナブルな社会に向けた環境課題解決【新設】 いちごのクライメート・ポジティブ CO2 削減量 > CO2 消費量（Scope1・Scope2） RE100 2025年までに事業活動で消費する電力を100%再生可能エネルギーに CDP リーダーシップレベルの維持

以上